

## 航空自衛隊航空支援集団、第730航空機動団の貨物支援を見学 *JASDF air support command experiences cargo support through 730 AMS visit*

April 12, 2024

By Staff Sgt. Taylor Slater  
374th Airlift Wing Public Affairs

3月22日、航空自衛隊航空支援集団副司令 加治屋秀昭空将補率いる一団が、横田基地の第730航空機動中隊を訪問し、同盟国との実務協力の一環として物資輸送機械化システムの運用を見学した。

一団はまず、第730航空機動中隊の倉庫に案内され、空港運用センター情報管制官ジェフリー・ウィークス軍曹から第730航空機動中隊のさまざまな任務と業務について説明を受けた。

「第730航空機動中隊は、小規模飛行場で戦力を倍増する部隊だ。設備が限られた飛行場に展開し、貨物や資産を運用支援する能力を携えている」とウィークス軍曹は説明した。

説明の中で、ウィークス軍曹は北日本、フィリピン、アメリカ本土での活動についても触れた。

その後、航空自衛隊の隊員たちは貨物を処理する自動装置「物資輸送機械化システム」を見学した。2015年に導入されたこのシステムは、通常の作業時間を3分の1に短縮できる。

第730航空機動中隊空港マネージャーのアーニー・ウェーバー氏は、「通常は6～8時間かかるボーイング747への積み込み業を1時間で済ませることができる」と述べた。

このシステムは、アジア太平洋地域ではこの横田基地にしかないもので、他にはドイツ・ラムシュタイン空軍基地、デラウェア州ドーバー空軍基地、サウスカロライナ州チャールストン統合基地といった数カ所にしか導入されていない。横田の機械は、第374使命支援群、陸軍工兵隊、そして日本の地元企業と政府の協力の賜物である。

第374空輸航空団にとって、パートナーシップは成功の鍵である。テナント部隊も例外ではなく、第730航空機動中隊は地域の同盟国の重要貨物をいつでも輸送支援できる態勢を整え、自由で開かれたインド太平洋の保障に寄与している。

